

序 文

——法学部創設十周年記念号の発刊によせて

法学部長 小 野 幸 二

わが法学部は昭和五十八年二月十四日をもって、創設十周年を迎えた。同年十一月二十一日には、これを祝し、板橋校舎体育館講堂において、八百余人の学生・本学学長理事長及び他大学法学部長等多数の来賓・教職員・父兄会員・同窓会員の参加をえて、法学部創設十周年記念式典が盛大かつ厳粛に挙行された。同日午後には、「現代社会における判例の任務」と題する団藤重光先生の記念講演があり、会場は感銘と興奮のうちに終り、参加者には全員 *Justitia* の衡りをデザインした法学部オリジナルのコーヒーカップが配付された。夕刻には、本学に因んだ記念樹「桐の木」が板橋校舎正門横に植えられ、夜は池袋サンシャインプリンスホテルで祝賀パーティが盛大に催された。

思えば、今日わが法学部が盛況稍見るべき状況に至ったのは決して容易なことではなかった。昭和四十八年の開講年度には、逸速く法学会が発足し、機関誌『大東法学』が発刊され、二年目には法学研究所が設置され、四年目の昭和五十二年には大学院も設置認可を受け、同年に卒業した第一期生二七四人を含め卒業生もすでに二、四六九人の多きに達し、社会においてそれぞれ相当の評価を受けるに至っているが、これには多くの先生方の堅実にして真摯なる不撓不断的の努力があった。まことに今日法学部があるのは、初代法学部長・城富次先生、二代法学部長・服部秀一先生、初代学科主任・坂

本雄三先生、二代学科主任・飯島要先生、三代学科主任・村田克巳先生（先生は法学部設置についてとくにご尽力なされた）、初代大学院研究科委員長・植松正先生、二代大学院研究科委員長・三宅正雄先生、それにすでにご退職された大場茂行、金子利一、鍋島直康、實方正雄、林田和博、堀内仁、石田秀夫、水田義雄、伊地知大介、正田満三郎、池田未利、中嶋敏、浅野裕司、梅本吉彦先生等諸先生のご指導・ご尽力の賜であり、われら法学部教職員は、これら諸先生のご恩を忘れてはならないと思う。

法学部教授会と法学会は、法学部創設十周年を記念して大東法学第十一号を、とくに「法学部創設十周年記念号」とすることにした。他に法学部創設十周年記念論文集の刊行が予定されているにも拘らず、いつもより多くの原稿が集まり、ここに十周年記念号の発刊を見たことはまことに喜ばしいことである。巻頭に、記念式典、記念講演、植樹式、祝賀会の写真および諸先生の近影を掲げ、創設十周年を祝することにした。これを期し、われわれは今後とも教育・研究の質的向上並びに法学会発展のために一層の努力を致していきたいと思う。